

## 令和6年度 北区立梅木小学校 自己評価報告書

北区立梅木小学校 校長 大木 秀政

## 自己評価の結果と分析並びに改善の方策

本校では、前年度との比較で、課題の把握及び次年度の改善すべき事項を数値化し明確にした。自己評価項目に対して以下のような4段階で評価を行っている。

- A (4点)概ね達成できている
- B (3点)具体的な活動がなされており、成果も現れている
- C (2点)具体的な活動がなされているが成果が現れていない
- D (1点)具体的な活動がなされておらず成果も現れていない

自己評価においては多くの項目で上がっている。教員が力を合わせ、協働して業務にあたり、自信を持って取り組んでいることの裏付けとも言える。一方で保護者アンケートや学校関係者評価にある結果を踏まえながら、そこから見えてくる課題を真摯に受け止め、改善していくことが児童の安全や安心につながり、教師の指導力の向上になっていく。児童を大切にし、保護者や地域からの信頼に応えられるよう、今後も以下に評価結果・分析と改善の方策を示し、次年度へとつなげていく。

節	項目	評価の視点	R5	R6	評価結果・分析	改善の方策
教育課程の編成	教育目標	学校・月目標の意識化	3.3	3.5	年間の指導目標や計画に基づいて計画的に取り組めた。「うめのキッズカリキュラム」を更新し、学校独自の年間指導計画を立てている。今後も教育目標の具現化に向けて意図的・計画的に進めていく。	引き続き「うめのキッズカリキュラム」を校内研究と関連しながら更新し、学校の持ち味を生かした指導をしていく。
	教育計画	生活時程・時間割配当・学校行事の運営	3.3	3.5	運動会を10月開催にした。児童の成長と学習の積み重ねが活かした行事にできるなど工夫が実った。	年間を通して大きな行事が分散できるようにし、安心とゆとりのある計画を立てていく。
	経営方針	健全な教育環境 職務の合理化	2.8	3.0	昨年度の反省を踏まえて、効率的な会議の運営や必要に応じた部会の開催をメリハリよくできた。	引き続き無駄のない校務分掌を行い、組織的に対応できる体制をつくる。
教育課題対応	人権教育	人権尊重教育年間計画、適切な指導	3.1	3.6	月初めの人権指導日には人権目標を確認した。教職員が意識高く取り組むことが必要である。	人権指導についてのOJT研修を行い、人権意識が低下しないように繰り返し確認していく。
	特別支援教育	校内委員会や巡回指導、SCとの連携	3.3	3.5	校内支援委員会において配慮が必要な児童の日常的なケアを話し合った。臨時の校内支援委員会を開いたり、区・都SCやSSWと連携したりと多面的な支援を行った。	今後も学校だけでなく、関係機関と連携を取りながら、児童を幅広く支援していく。
各教科	授業改善	授業改善プランを生かした指導法改善	3.0	3.1	昨年度の反省を踏まえ、授業改善プランは作成し実践したが、その後の効果を検証する場も設けた。	今後も年度末に効果検証する報告日を設けて、指導の効果や児童の変容を確認する。
	学び合う学習	学び合いを生かした主体的な学習の展開	3.1	3.3	校内研究の研究テーマで共通して児童が主役の授業づくりをしてきた。教科を生活科、総合的な学習の時間に絞ったため、課題や成果について共通理解が図れた。	引き続き研究テーマに沿って、教材開発や年間指導計画を作成し、指導力向上を図る。
道徳	計画と準備	副読本・教材、魅力的な資料の活用	3.5	3.5	道徳主任による教材の発信や共有ができてきている。OJTによる評価の在り方も研修できた。	道徳授業を丁寧に実施する。OJT研修を開いて児童の思いをさらに掘り起こせる指導力を付けていく。
特別活動	委員会活動等	クラブ、委員会活動への主体的な参加	3.4	3.6	児童数と教員数のバランスを考え、無理なく実施できる体制を組んで実施できた。	引き続きバランスのよい運営体制を組み、児童が主体的に活動できるよう支えていく。

節	項目	評価の視点	R5	R6	評価結果・分析	改善の方策
総合	総合的な学習	授業の振り返り「自己の生き方」	3.4	3.7	「うめのキッズカリキュラム」を作成し、総合の単元開発ができた。次年度以降も年間指導計画を更新直すことが課題である。	総合的な学習の時間の単元開発を行っていく。
特色教育	特色ある教育活動	業間体育的活動（70m走）やドッジボール週間等の活動		3.7	今年度より評価の視点を変えた。業間体育的活動やドッジボール週間、持久走週間など日常的に行っている活動を継続していき、体力向上にもつなげていく。	オリバラ教育の学校レガシーを継続しつつ、体力向上や礼節等を学ぶ機会を継続する。
生活指導	生活指導	配慮を要する児童についての情報共有	3.3	3.7	毎週的生活指導夕会で、配慮を要する児童の現状を伝え合い、共通認識のもとに具体的な対応や今後の働きかけ等について考えた。	年間を通して継続的に児童を見守ることが大切であり、記録に残しながら共通理解ができるようにする。
生活指導	安全指導	避難訓練・セーフティ教室	3.5	3.6	避難訓練やセーフティ教室を計画的に実施できた。登校班は学校として運営することが困難である。	避難訓練等は今後も実際に即してできるように計画する。登校班は解消し、別の手立てを工夫する。
研修	研修	校内研修の内容	3.3	3.5	サービス事故防止やICT活用、生活指導等の研修を適宜実施した。OJTについては、月1回の教員ミニ研修会の開催を行った。	主任教諭連絡会を中心にOJT研修を計画的に実施する。
施設設備	施設	体育館や校庭、プールの管理・修繕	3.5	3.6	環境整備を計画的にできた。廃棄物品がまだあり、教室等の有効利用には課題が残る。	用途に応じた部屋の整備を計画的に行い、廃棄物品を適切に処理していく。
組織運営	組織	企画会・職員会議の内容・運営	3.3	3.5	会議等の回数は適度にできている。企画書をあげる時期に遅れがあるものも見られたのが課題である。	適切な時期に企画書を提出できるよう教務部を中心に運営する。
学校・家庭・地域との連携	家庭	土曜公開日授業参観学校公開日の設定運営	3.7	3.7	土曜公開日が減り、保護者と日にちを合わせて実施した。働く家庭が多い中、できるだけ保護者の負担にならないように工夫したが、その分時間を十分に確保はできなかった。	学校公開の効率的な実施と情報発信が適度にできるよう計画していく。
		保護者会・懇談会個人面談の設定運営	3.6	3.5	夏季休業中の個人面談は教員の研修等と日程が重なり課題となっていた。時数を確保しつつ、ゆとりある面談の機会を設けるのが課題である。	夏季の個人面談は7月の平日に実施する等の工夫をし、タイトな日程にならないようにする。
	情報公開	配信メールやHPの内容更新状況	3.2	3.5	重要な内容は適宜配信して事前に連絡できた。新年度よりHPの仕組みが変更になり、tetoruも導入されるため準備していく。	新しいシステムが導入されるため、そのシステムを活用して発信していく。
		通知表の様式、内容の分かりやすさ	3.4	3.5	今年度は保護者会の時間設定も短く、十分な説明ができたかという課題が残る。児童の様子を適切に分かりやすく伝えていけるように工夫が必要である。	保護者会や個人面談等で通知表の評価について十分に伝わるように計画する。